

## 全国の小学生100人が「ことば」と「体験」の力を知る 「読書と体験の子どもキャンプ」 東京・代々木の国立オリンピックセンターで開催

国立青少年教育振興機構と文字・活字文化推進機構は、7月27日(木) から7月30日(日)の3泊4日、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで「読書と体験の子どもキャンプ」を開催しました。10周年目となる今年度は、全国36都道府県の読書活動優秀実践校など51校の小学5・6年生100人が参加しました。

### ◆1日目◆



まずは、アイスブレイク。初めは緊張していた子ども達も、次第に表情が和らぎ、楽しいレクリエーションの時間を過ごしました。

開会式では、文部科学大臣官房審議官の神山修さんから、祝辞をいただきました。最北端北海道と、最南端鹿児島県の参加児童が元気いっぱいに児童宣誓。いよいよ3泊4日間のキャンプの始まりです！



このキャンプでは、班ごとにワークショップに取り組み、最終日に発表会を行いました。今年のテーマは「ことばの貯金箱～未来に届けよう！わたしたちのメッセージ～」。新聞から好きな言葉を切り集めて台紙に貼ってギフトカードを作ったり、未来に届けたい記事を選び、その記事からメッセージを考えるという内容です。第一回目のワークショップで、ことばの貯金箱「夢」プロジェクト代表の渡邊裕子先生が概要説明をしてくれました。まずは、これまでに周りの人からもらった「大切にしたいことば」を、班のメンバー同士で紹介し合いました。

### ◆2日目◆



2日目は、都内見学。まずは上野の「国際子ども図書館」へ。館内の「児童書ギャラリー」「調べものの部屋」「子どものへや」の3か所を3手に分かれて見学。思い思いの本を手に取り、夢中で読む子どもたち。あっという間に滞在時間が過ぎ、名残を惜しみつつ図書館を後にしました。浅草の雷5656会館で昼食を取った後は、みんなが特に楽しみにしていた「東京スカイツリー」を見学。上空350メートルから見下ろす街並みは、まるでミニチュア模型のよう。ガラス床コーナーにはみんな大興奮でした。

裏面へつづく▶▶

【お問い合わせ】文字・活字文化推進機構(谷・赤熊)

TEL03-3511-7305/FAX 03-5211-7285/E-mail:info@mojikatsuji.or.jp





夜は、お笑い芸人ゴルゴ松本さんの特別講演「命の授業」を聴き、ことばの大切さを学びました。

### ◆3日目◆



午前中は代々木公園の木陰で読書。レジャーシートを敷いて、朝食をとったあと、涼しい木陰でそれぞれが持ってきた「おすすめ本」を交換して読み合います。自然のなかで、リフレッシュ！



午後からは野外炊事に挑戦！班で協力して、カレー、サラダ、フルーツポンチ作りにチャレンジ！カレーの肉や具材をくじ引きで決定すると、それぞれの役割に分かれて作業を進めました。初めての薪割りや火おこしに悪戦苦闘しながらも、各班オリジナルのカレーが完成。皆で食べると味も格別です。



ワークショップもいよいよ大詰めです。新聞から好きな言葉を切り抜いて貼り付ける「ことばのギフトカード」や未来の自分へ贈りたいメッセージ、未来へ届けたいメッセージを考え合いました。

### ◆4日目◆



最終日、「ことばの貯金箱～未来に届けよう！わたしたちのメッセージ～」をテーマにポスターセッション方式で発表会を行ないました。10班分の、個性豊かなメッセージがズラリ。会場には保護者などの見学者約50人も来場し、児童が発表するワークショップの成果を聴いていました。

盛りだくさんのプログラムを体験した子どもたちが、それぞれの地域に戻り、「読書」と「体験」の大切さを伝える大使として、大いに活躍してくれることを期待しています。

※ 詳しい内容は、後日、報告冊子にまとめて発行いたします(11月完成予定)